

女子学生の生活意識について（その1）

——特に音楽専攻生の学生生活を中心として——

A Study on the Making of the Life-Consciousness of Young Women——mainly from the Students' Life of Music Majors (PART I)

長 野 孝 男

緒 言

本研究は、女子四年制大学の、音楽学部学生の生活意識についての一面を、調査することを目的としている。その理由は、われわれが学内で、しばしば耳にすることの一つに、「音楽専攻学生は、一般の大学の女子学生と違った日常生活をしているに違いない。また違った人生観を持ち、どちらかといえば、音楽のレッスンを中心とした生活をしているに違いない」ということである。

そこでわれわれは、特に音楽専攻学生が、実際に他大学の学生のもつ生活意識と異なった生活意識を持って毎日を送っているのか、またそういわれながらもそれほど一般の大学女子学生との差を示さないかを理解するために本調査にとりくんだ。

そして、音楽学部学生の生活を理解することによって、一般教育または音楽の専門教育においても効果をあげるよう貴重な資料としても役立てようとするものである。

以上のような「緒言」から、われわれはつぎに研究目的を設定した。

研 究 目 的

今回の調査は、相愛女子大学（音楽学部）一回生、100名と比較するための対象者として、K大学、理工学部学生35名、法学部33名、農学部40名の、計108名の女子学生を今回の調査対象として選択された。

調査内容は、女子大生の生活面に関係のある16項目が作成された。これらは、多くの生活場

女子学生の生活意識について

面のうちの一部であるので色々と問題点が残されると思うが、音楽を専門にしている学生の生活を少しでも理解するために調査項目として導入された。しかし本調査の調査票では12項目に制限されたが、その理由は、日常生活とあまり関係のない回答が除外された4項目から出てきたこと、例えば「大学入学前のクラブ活動について」とか「寮生活について」の諸々の問題は、あまりにも一回生の寮生が回答するには困難であったためである。以上、われわれは本調査において、12項目に限定して研究を進めた。

それらの内容は、(1)なぜ大学に進学をしたか。(2)何を生活の目標に毎日を過しているか。(3)大学生活の満足度について。(4)余暇に費やすことのできる1日の平均時間数について。(5)余暇活動についての満足度について、また不満足な点について。(6)余暇活動の内容、実態について。(7)夏休みの過ごし方について。(8)クラブ活動の参加度について。(9)クラブの入部動機について。(10)1日(24時間)のうち、一般教養、専攻関係の勉強に費やす時間数(学校の授業時間は含まない)。(11)卒業後の就職動機について。(12)就職を希望する場合、職業の選択について。

以上について回答させた。そしてそれらの項目すべてに理由説明を自由応答法により求めた。

調 査 結 果

(1) なぜあなたは大学に進学をしたか。

4項目中、1項目を選択させた。

A)「就職」のために進学したと回答したもの。

全体のうちで僅か3%で、理由は、

- 将来手に職を持って就職したいから、と述べている。

B)「教養常識」を身につけるため。

これは25%で、理由として、

- 技術だけの学習にとどまらず、人間としての教養常識を磨きたいから。
- 最近では、だれでも大学に行くから。
- 幼い時から身につけてきた知識を完成させたいから。

といったことをあげている。

C)「生涯教育」のために。

この項目が最も多く、60%の選択者があった。それらの理由は、

- 専門を一つでも持って生きたいから。
- 一生をかけて音楽というものを自分なりに追求して行きたいから。
- 音楽をやっておれば、結婚ができなくても生活をして行けるから、といった回答がみられる。

女子学生の生活意識について

D)「その他」

は、12%であった。

- 本校中学に入学したので仕方なく大学に入学した。
 - 勉強以外に人と触れあいを持ちたいから。
 - ほとんどの友達が、大学に行くから（大学に行かないと不安だから）。
- 以上のような選択理由を答えている。

(2) 何を生活の目的にして生きているか。

7 項目中、1 項目を選択させた。

A)「金をためる」のを目的にが、全体の 4%であった。理由は、

- 一生音楽を勉強するには、お金が必要だ。
- 誰にも遠慮なく生活するために。
- この社会の中でお金がなくなると生きていけないから。

B)「有名人」になること。

これは、全体の 3%であった。理由は、

- 凡人で死にたくないから。
- 自分のピアノを、他人に認めてもらいたいから。

C)「自分本位の趣味生活」をするために。

この項目は、42%で最も多い比率を示している。それらの理由は次のようである。

- 将来何か仕事をもって趣味をかねた仕事をもちたいため。
- 趣味を通して自分を向上させたい。
- 自分の趣味を持ち、それを中心に生活ができるということは、充実した生活が出来るので。

D)「その日をのんきに暮らす。」

回答者は 5%であった。理由は、

- 自分にとって一度しかない人生を、せかせかとすごしたくない。
- 自分から進んで何かをするような性格でないから。

E)「清く正しく暮らす。」

回答者は 5%で、理由は、

- 毎日の生活を大切にしていきたいから。
- 社会に対しては、清く正しく暮らすべきで、毎日充実した有意義な日々を送りたい。

F)「社会に捧げつくす。」

回答者、0%。

G)「その他」

女子学生の生活意識について

この回答が、全体の41%をしめ、第2位にあたる。理由は、

- 一度しかない人生だから、毎日少しでも前進するような人間になるよう自分をみがく。
- もう18歳だし、女の子として恥ずかしくないだけのことは身につけたい。
- 好きな勉強をして、その他は友人とのつきあいを楽しみたい。
- 今という時間を精一杯生きたい。

以上から音楽専攻生は、音楽を通して自己啓発、人格形成のための方向づけを求めていることが理解される。

(3) 大学生生活の満足度について。

A) 満足である。

と回答した者は全体の44%で、次のような理由を示している。

- 新しい友達が出来て楽しいから。
- 自分で満足できるよう努力しているから。
- 第一志望の大学が、本大学だから。
- 高校までは、規制が多かったが、大学では自由で自主的に自分の好きな事ができるので。
- クラブ活動が出来るから。
- 大学では、音楽を広い分野で学べるから。
- 大学では、自分の好きな勉強が出来て楽しいから。

B) 不満足である。

と回答した者は56%で、理由は、

- 何かわからないが、女子大という雰囲気にもものたりなさを感じる。
- 月謝が高い。
- 大学らしいキャンパスがほしい。
- 高校時代の生活となんら変わらないから。
- 学校側の姿勢に投げやりな態度が見られる。
- もっと大学らしいカリキュラムを。
- 音楽学部に来ている人間が、好きでない。
- 自分が今まで考えていた大学生活とちがって、自分自身の時間が少なすぎるため。
- 自分の生活に満足しては進歩がないから、満足しない。
- 通学に時間がかかりすぎる。
- 本大学は、もっと厳しさがほしい。

以上で注目される点は、音楽専攻生の「個性的」な人格について触れ、「友人」としてのつき合いにくさを感じさせるものがある。

女子学生の生活意識について

(4) 余暇に費やすことのできる1日の平均時間数。

次の表から見ても理解されるように、3時間と回答した者が第1位、次に2時間、4時間の順である。

時間	1	2	3	4	5	8	わからない
%	9	25	29	22	7	1	7

1日の余暇活動に使用されている時間数（相愛女子大音楽学部1年生）

(5) あなた自身、余暇活動を満足しているか、不満足と思っているか。

「満足」49%。「不満足」51%、とほぼ相半ばしている。

満足理由

- 誰にも束縛されず、リラックスして思いきり好きなことをして楽しんでいるから。
- クラブ活動ですべての満足感を味わっている。
- 音楽から離れて、自分の趣味に十分つかっている。

不満足理由

- 学校に行くだけで疲れるので、余暇活動が出来ないのが残念だ。
- 高校時代より時間があるはずであるのに、何となく過してしまっているから。
- もっとまわりが静かにしてほしい。

これらの理由から考えても、余暇時間の過ごし方については、音楽専攻生は計画的であるように思われない。それはつぎの活動内容からも理解される。しかし、健全な方向にある点は十分評価される。

(6) 余暇活動の内容、実態。

多いものより順に並べると、

- | | |
|-----------|-----|
| ①テレビ・ラジオ | 31% |
| ②レコード鑑賞 | 17% |
| ③読書 | 15% |
| ④ねる | 8% |
| ⑤買物 | 6% |
| ⑥クラブ活動 | 5% |
| ⑦友達とおしゃべり | 4% |
| ⑧映画 | 2% |
| ⑨手芸 | 2% |

上記の%からいっても、健全な形での余暇利用であることは確認された。

女子学生の生活意識について

(7) 夏休みの使い方

①アルバイト	41%
②音楽関係・一般教養の勉強	21%
③旅行	11%
④クラブ活動	10%
⑤自動車の運転練習	3%

1位のアルバイト(41%)は、何のためか目的が収集されなかった。しかし「生活のため」「経済的理由のため」ということではないようだ。

(8) 現在、クラブ活動をしているか。

活動をしている	35%
活動をしていない	65%

「していない」が、約2倍の比率を示している。

(9) クラブの入部動機について。

文章で回答してもらった。

- クラブが好きで。
- 上級生と、また下級生とのつながりを深めたいから。
- 体力の低下を防ぐため。
- 以前にやっていたから。
- 授業でおもしろくなったから。
- 家族に勧められて。
- 親に反対されたので入部を決心した。
- 友達と何げなく。
- 集団生活に慣れて。
- お金がかからずスポーツが出来るから。

以上のような理由を回答している。

(10) 1日(24時間)のうち、一般教養、専攻関係の勉強に費やす時間数(授業中の時間は除外された)。

次の表によると、3時間がもっとも多い。

女子学生の生活意識について

時間	1	1.5	2	2.5	3	3.5	4	4.5	5	6	わからない
%	2	4	16	3	26	0	18	1	3	1	26

1日の勉強の時間数（相愛女子大音楽学部1回生）

- (11) 卒業後就職を、「する」「しない」「わからない」で調査をした。

す	る	43%
し	ない	8%
わ	からない	49%

上の比率が算出された。

「わからない」の49%については、就職に全然関心がないのではなく、採用試験に合格すれば教師になるが、不合格の場合はその時に考えるというような回答で、「わからない」の中でも「する」と同じような考えでいる学生が多いことを本調査で知った。

- (12) 職業を持つならば、どのような種類の職業を選択するか。

音楽関係の仕事	78%
イラスト、デザイン、役者、 語学関係、放送、舞台、その他	22%

回答の結果、音楽関係の仕事をはじめとして、芸術関係の仕事希望する者が多いことも知ることが出来た。

以上が調査結果である。これらの結果を、一般の他大学の学生と比較して検討すると、「なぜあなたは大学に進学したか」。

について「生涯教育」のためと回答した者は、全体の60%を示していたのに対して、他大学の女子学生では、教養常識（36%）就職のため（27%）と答えている。本学では就職のためと回答したのはわずか3%しかいないのも、音楽学部という一つの特徴であろう。そして本学で生涯教育のためと答えた学生の大半が、音楽と自分の生活を結びつけていること、そして自分は専門教育を受けているという意識が非常に強いことも知った。

「何を生活の目的にして生きているか」

自分本位の趣味生活と回答した者が42%、他大学では33%、と同じく高い数値が出ている。

「大学生生活の満足度について」

満足している者44%、不満足56%といった状態で、満足者は幼少の頃よりあこがれていた大学に入学出来て満足しているといい又、不満者は女子大という学校生活にものたりないと

女子学生の生活意識について

答えている点、対照的な回答が出ている。又他大学で不満足と答えた者は53%であった。その不満理由の中で、男子学生数にくらべて女子学生数が少ないので、大学生活を送るのが困難だといっている者が多いが、本大学では、男子学生がいないことを不満足とする回答もあり、人間は、与えられた環境に満足しない傾向がみられる。

「余暇に費やすことのできる1日の平均時間数」

これは、本大学も他大学も2～3時間と答えた者がもっとも多かった。

「余暇活動の内容・実態」

テレビ、ラジオ、レコード鑑賞、読書の順で、他大学でも同じようなものが上位をしめていたのも現代大学生の生活傾向と見てよからう。そして本学々生のレコード鑑賞だが、勉強のための音楽と、余暇の時に聞く音楽とをはっきり区別をして、余暇を楽しんでいることも今回の調査で知ることが出来た。

「夏休みの使い方」

これは本大学では、1位 アルバイト(41%)、2位 旅行(11%)、他大学では、1位 アルバイト(72%)、2位 旅行(6%)、と同じ順位の回答が出された。

「現在クラブ活動をしているか」

本学では、クラブに35%の者が入部し活動しているといい、他大学では、同好会を加えると、51%の者がクラブ活動をしていた。

「クラブの入部動機」

われわれが当初予想していた結果とは異なり、彼女達の入部動機を以下のように述べたことについて、われわれなりに検討し直さねばならない。それは、クラブを社交の場というか、上級生と下級生と、自分の専攻と他の専攻の学生の結びつきを目的に、入部した学生が多いことに、非常に興味を持つと同時に、これらの入部動機を知ることにより、これからのクラブ運営にも役立つ資料となるだろう。そして他大学でも本学と同じような、回答を得られたことは、現代の大学生がいかに縦・横のつながりのない大学生活をしているかを、知ることが出来た。

「1日のうち、一般教養、専攻関係の勉強の時間数」

本学では、3時間～4時間が多いのに対して、他大学では、1時間～2時間が多かった。また、音楽専攻学生は、専攻実技の練習に全時間数の半分を使用していることも、この調査で理解することが出来た。

「卒業後の就職に対して」

本大学々生は、49%が「わからない」と回答した。しかし、卒業するとほとんどの者が、音楽関係の仕事についているようだが、在学中ははっきりとしないのが、音楽専攻学生の特徴ともいえる。

それに対して他大学々生は、教職関係、公務員が多く、両者を合わせると36%に達する。

この点が両大学生の顕著な違いとして指摘することができる。

要 約

今回の調査は、音楽専攻学生が、他の学部の学生と異なった学生生活を送っているかどうかを検討するものであった。ただし、本調査は予備的なものであって、被験者の数も 100 名（1 回生全員）しか調査が、出来なかったことに問題が残されている。しかし、集計の結果、これらのデータは、これからの学生指導に有益と思われるいくつかの点が発見された。それらの要因について、整理してみると、

当初、われわれが考えていた彼女等の生活は、他学部学生とあまり違っておらず、むしろ、共通点が多く見られた。ただ、他大学生とちがった点は、音楽専攻の学生は、音楽の専門の学校に通学している。いいかえれば、専門意識が人一倍強いことが理解されたのである。

参考文献

永沢幸七

「女子大生の生活と心理」（1979）大日本図書

長野孝男

「体育科成績の向上に係る要因分析」（1974）

相愛女子大学
相愛短期大学 研究論集 第22巻